



# 凰

Premium Craft Butsudan “OU”

建築家のための  
仏壇マニユアル





# 凰

Premium Craft Butsudan “OU”

## モダンデザイン × 仏壇伝統技術

凰は、デザイナーや建築家と協働しモダンデザインを取り入れた滋賀県の彦根市で製造する国内最高級の仏壇です。

日本がこの数千年で培ってきた伝統技術は世界でも類いまれな発展を遂げてきました。漆工や木工、彫刻、鍍金具、金箔、織布、陶芸など、様々な分野で技術が発展し、世界最高峰の工芸品が生まれています。

凰は、その高度な伝統技術をモダンデザインに取り入れ、現代の空間に見合うとされる仏壇の中でも極めて高い品質とデザイン性をお約束します。

空間の主役となるような存在感のある伝統的な仏壇を始め、建築家が生み出した先鋭的な空間や石張りの現代的な空間に見合う独立仏壇、または建築の一部となって壁や扉の中に納まる仕込み壇、イタリアの高級家具の中に完璧な寸法で入れられるハメ込み壇など、あらゆる高いご要望にお応えしています。

基本は詳しいご要望を伺ってデザインから始めるオーダーメイド品での対応ですが、一部既製品もご用意しています。建築家や空間デザイナーの方が引いた図面からの製造もご相談を承っております。

モダンデザインを取り入れ、伝統技術から生み出される確かな品質。凰は「美しく、慎ましくも、風格ある存在」として新たに日本の美意識を体現します。





# 目次

01	“風” コンセプト
03	目次
04	現在の仏壇を取り巻く状況
06	仏壇のルールと必要なこと
10	<b>Case Study 01</b> 一戸棚やキャビネットに嵌め込む
12	<b>Case Study 02</b> 一壁の中に仕込む
14	<b>Case Study 03</b> 一置き型仏壇の仕上げをオーダーメイドする
16	<b>Case Study 04</b> 一ニッチを仏壇にする
18	<b>Case Study 05</b> 一寺院の仏壇
20	伝統工芸の素材と技法
22	お問合せ窓口・仏壇処分・その他



# 現在の仏壇を取り巻く状況

自宅の寺院である仏壇は宗教設備です。御本尊の仏像または掛け軸を安置し、ご先祖様と一緒にお祀りすることが目的です。

仏壇を不要と考える方も増えてきましたが、必要とされる方もまだまだおられます。ご家族が亡くなられたことを切っ掛けに、親から受け継いだり、買い直しされることも多いでしょう。建築家に住宅設計を依頼されるお客様の中には、“簡易なかたち”での設置を希望される方、または厳格に“きまりごと”を守った伝統的な仏壇を希望される方、さらには地域の風習やお寺様の仰られることを守る方もおられます。仏教は様々なかたちで日本の生活文化の中に溶け込んでおり、現代の信仰のかたちは多様になっています。

建築家は、住宅の設計時に仏壇を取り込むこともあるはずですが、中には床面積の都合で伝統的な仏壇を取り入れることが難しい場合や、目指す空間にそぐわない場合もあったでしょう。仏壇の“きまりごと”やクライアントの要望などの全ての条件に応じつつ、建築家が生み出す現代の空間に無理なく調和し、溶け込むような高品質な仏壇を設計に取り込むことは今までできませんでした。

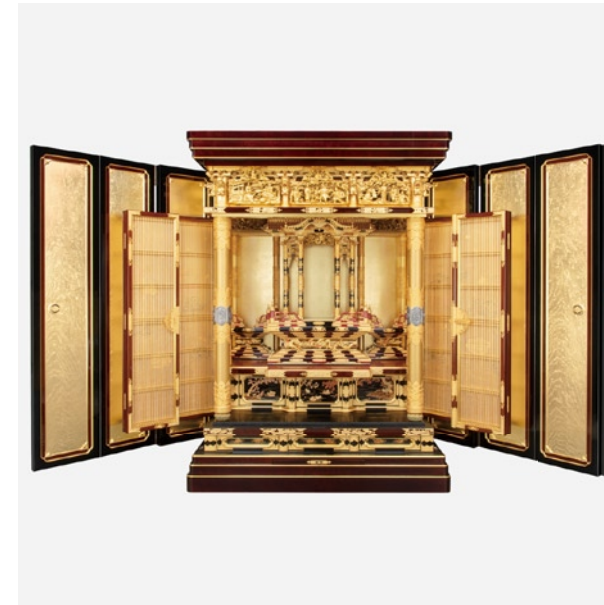
“風”は、建築家が提案する空間の中に違和感なく組み込める、工芸品質のオーダーメイド仏壇を提案しています。全国でも屈指の産地である伝統的工芸品「彦根仏壇」を手がけてきた井上仏壇が、長年に渡って蓄積してきた知識とあらゆる宗派の顧客対応の経験をもって、建築家の皆さんと一緒に作り上げたいと考えています。

お客様の多様な要望に応えつつ空間に似合う高品質な工芸として、宗派はもちろん仏壇の基本を踏まえた伝統素材や現代素材、それらを組み合わせた製造方法まで、柔軟に提案することを目指しています。

仏壇は伝統的な金仏壇や唐木仏壇から、モダンで現代的な家具調まであります。サイズも床に設置する胴長台付きタイプから、キャビネットなどの上に設置する上置きタイプ、ステージタイプまで、どんどんと簡略化しています。生活スタイルに合わせた形に進化し、生活空間に溶け込もうと進化しているようにも見えます。

建築家の皆さんが創造する空間と一体となる形は、顧客が求めるひとつの完成形になりうるかも知れません。

## 現在の代表的な仏壇のタイプ



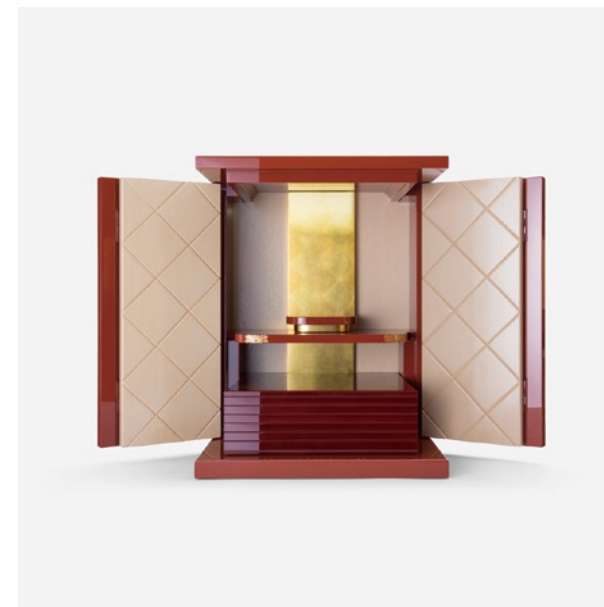
伝統タイプ（金仏壇）

金仏壇と呼ばれる伝統的な仏壇です。宗派や地域によってサイズや形、素材、技法など様々です。伝統的な仏壇には、唐木で作った唐木仏壇もあります。



胴長台付きタイプ

下に台が付いた背の高い仏壇です。伝統を意識した仕様のももありますが、家具調と呼ばれる家具に近い素材の仏壇をリビングなどに置いて使用されることも多いです。



上置きタイプ

キャビネットや棚板などの上に置いて使用される小型の仏壇です。少しのスペースでも置けるため、広く普及はじめています。



ステージタイプ

上置きタイプと同じように使用される小型の仏壇ですが、上部を覆わずにさらに小さく簡略化したものです。



# 仏壇のルールと必要なこと

仏壇にはさまざまな“きまりごと”があります。

全ての仏壇に共通している“きまりごと”は、御本尊を安置する場所の扱いです。ここを須弥壇と呼びますが、須弥壇はもっとも重要で高い位置になるよう扱われます。

また花を飾り、蠟燭に火を灯し、線香を焚く仏具を使う場所も必要です。昨今では位牌または過去帳を置く場所も必須になってきました。つまり須弥壇、位牌壇、仏具を使う場所の3つの場が必要になります。御本尊や仏具の大きさはさまざまなサイズがありますのでほとんどの場合で対応できますが、手に入るものの最小サイズがあり、それらを設置する仏壇には最低限の寸法が求められます。

家の中での位置は特に決まりがありませんが、法事ができる配慮は必要でしょう。家族が仏壇の前に集まれるスペースがあると良いでしょう。

もちろん各宗派の御本尊をお祀りする設備を家庭に設置することが本来の目的ですから、各宗派の“きまりごと”もあります。ここでは細かい各宗派のことまでは掲載できませんが、仏壇の基本を抑えていただければ、よほどのことがなければ対応できます。

また、一般的なことを記述していますが、地域の風習やお寺様の考え方、本人や親族の考え方によっては別の条件が提示されることも十分にあります。依頼者のお考えを伺わないとお答えできないこともあることはご理解ください。

もし気になることがあれば、井上仏壇までお気軽にご相談ください。

## 既存の御本尊の移動の流れ

### 1 閉眼法要

仏壇を移動または処分の前日まで御本尊に対してお寺様に依頼して閉眼法要を行います。



### 2 移動・仮置き

閉眼法要を済ませてから御本尊を取り外し、移動します。新しい仏壇が完成していない場合は仮置きの台などを整えます。



### 3 開眼法要

新しい仏壇または既存の仏壇を移動した先で御本尊をお祀りする際は、お寺様に依頼して開眼法要を行います。

## 既存仏壇と仏具の移動・処分

1の閉眼法要が済んでから、移動します。処分される場合は購入店または仏壇処分を扱っているところに相談します。あまり気は進まないかも知れませんが、粗大ゴミとして地方公共団体に依頼しても処分は可能です。

井上仏壇では、不要な仏壇仏具のお引き取りもしています。仏壇仏具供養会を行なった上で処分しています。 → p.22

## 位牌の移動・作り直し

位牌を移動させることや新しくすることは、ご随意にいただいで大丈夫です。気になる方は閉眼法要と同じように法要をされる方もおられますが、特に必要はありません。

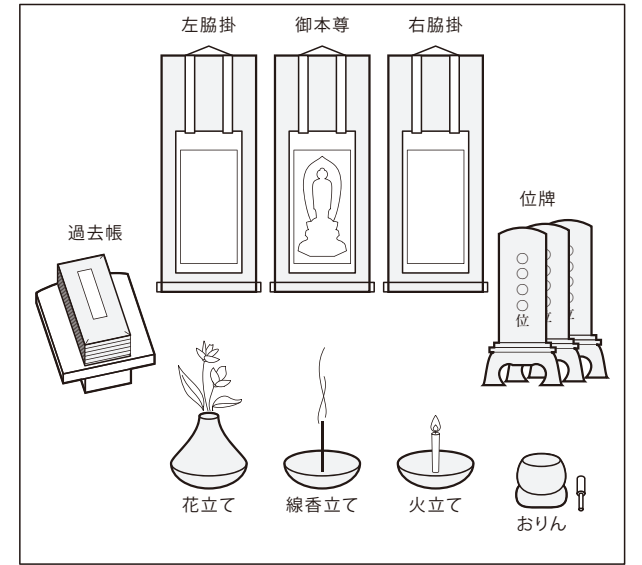
移動される場合、新しい仏壇に合わせてご先祖様の位牌を小さく作り直したり、まとめられる方も多です。井上仏壇にご相談ください。 → p.22

## 仏壇に安置するもの — 御本尊・仏具・位牌の3種

仏壇には信仰の対象となる「御本尊」、お祀りするための「仏具」、そして最近ではほとんどの場合で「位牌」または「過去帳」「法名軸」も安置されます。

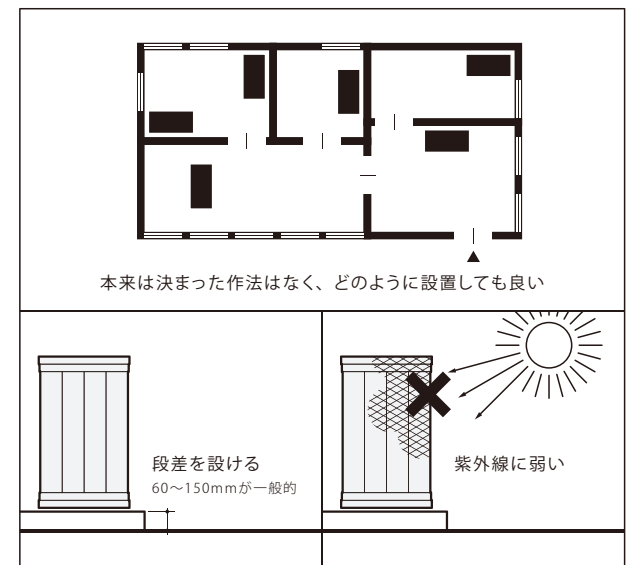
仏壇の中心は御本尊となる「仏像」あるいは「掛け軸」です。左右の「脇掛」と合わせて3幅が基本ですが、小さな仏壇では脇掛を省略して御本尊1幅だけの場合も増えています。クライアントが受け継いだ仏壇がある場合は、先祖代々でお祀りしてきた御本尊をお祀りすることが基本となります。仏具は宗派によって様々ですが、三具足と呼ばれる「火立て」「線香立て」「花立て」と「おりん」が最低限のセットです。

※「位牌」か「過去帳」または「法名軸」かは宗派や地域によって異なります。



## 仏壇を置く場所と方角 — 自由に置いて良い

実は、家の中に仏壇を置く位置や方向には特にきまりごとはありません。ただし西方浄土として西に向かって拝むことを好まれる方、毎日拝む方や地域や風習を守られる方、鬼門を気にされる方もおられます。例えば、ある地方の伝統的な民家では、仏壇を必ず家屋の中心に置く風習があります。クライアントには「本来はきまりごとはない」とお伝えした上で、ご希望や風習を伺う方が無難でしょう。



ただしほとんどの仏壇は床の上に直接置くのではなく、床の間と同じように段差は必要です。特に伝統的な仏壇は足元まで漆芸品ですので、傷や汚れが付きにくくする配慮が必要です。また、漆を含めた塗料は紫外線劣化が激しく、直射日光が常に当たる場所は避けてください。

## 仏壇の上には何も置けない — 雲の彫刻で対応する

「御本尊」は尊いものとして扱います。よって、仏壇の上には物置きを作らない、人も通らないことが基本です。昔の仏間は外壁から飛び出したアルコーブになっていて、仏壇の上には屋根しかない状態にしていました。

現在では複数階やマンションなど上の階に人がいることが当たり前になっているので、仏壇の上の天井に「雲」や「天」の字を書いた紙や彫刻を貼ることで回避します。

ただし、この点も気にされる方もおられるので、クライアントに確認すべきです。



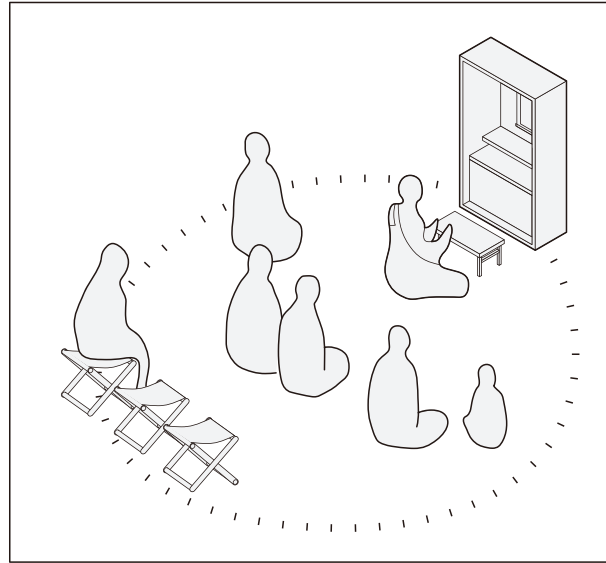
※一部の地域では仏壇の上に神棚を設ける風習もあります。



**法事** — 家族が集まれる場所にする

仏壇の置く場所にきまりごとはありませんが、法事を執り行えるようにする必要があります。お寺様を中心に、親族や家族が仏壇の正面付近に集まれるようにすることが理想です。

法事に参加される人が集まれるのであれば、土間でも構いません。仏具には胡床と呼ばれる折りたたみできる簡易な椅子などもあり、土間や石畳に座って法要に参列することも問題ありません。



**照明** — 仏壇内を照らす

伝統的な仏壇には照明は付いていませんが、最近のほとんどのモダン仏壇には上部に照明が付いています。住空間が明るくなったことも関係するかも知れませんが、仏壇の中が見えにくいのを嫌う方がほとんどです。特にクライアントの希望がなければ、照明器具は付けるようにした方が良いでしょう。



**素材や仕様** — 宗派によって異なる

仏壇の細かい素材や仕様は、宗派や地域性によって様々です。避けるべき表現もあります。しかし十三宗五十六派とも言われる宗派に加えて地域性もあり、ここではとても全ての条件を示し切れません。ある程度のデザインの方針などが決まればご相談ください。

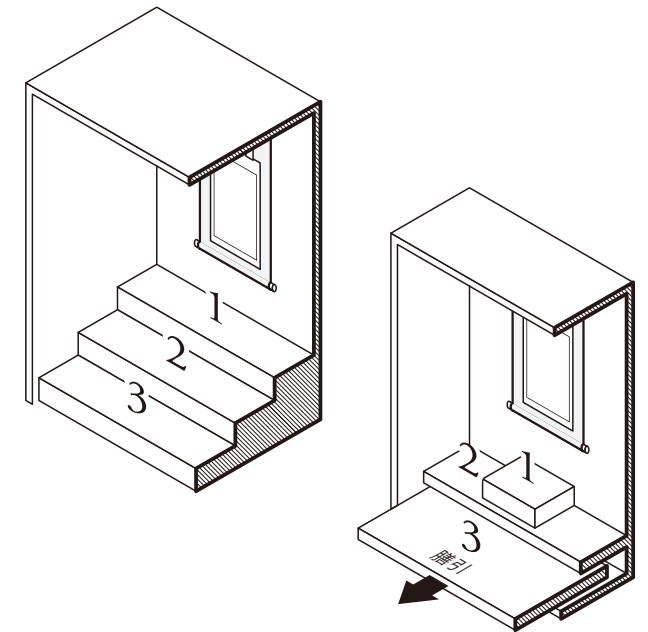


※右写真：本山に倣って柱の仕上げ（黒漆／金箔）を変えたりします。

**形状** — 3段は必要

多くの場合で御本尊は「仏像」ではなく「掛け軸」になりますので、基本的には背板部分で軸を吊る必要があります。（吊れない場合には略式の置き型タイプもあります。）

そして段状に3段必要です。御本尊を祀るためのもっとも高い位置にある須弥壇（1）、一段下がって位牌を置くための位牌段（2）、そして一番下の仏具を使う段（3）です。さらに、この3段に加えておりん・お経・木魚を扱う「机」か「台」が仏壇の前に置かれます。十分に広ければ（3）と兼ねることもあります。（3）や「机」は引き出し式にした板（膳引）にする方法もよく見かけます。膳引にすると収納できるだけでなく、火の扱いも安全になります。

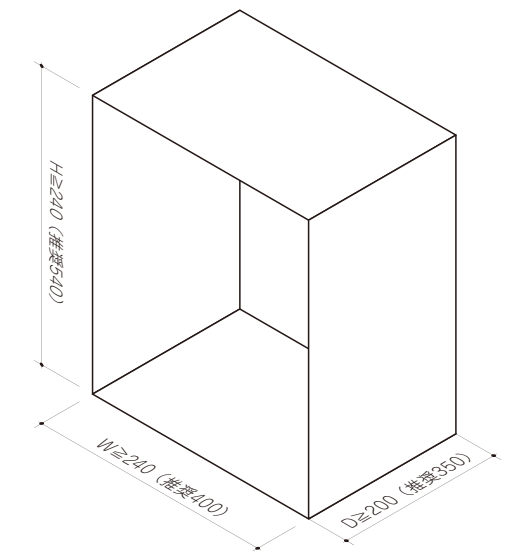


**サイズ** — 仏壇として成立する最低の寸法

推奨サイズ（内寸）  
 横幅：400mm以上（だいたいの仏具が置ける）  
 奥行き：350mm以上（ある程度自由に置ける）  
 高さ：540mm以上（だいたいの仏具が置ける）

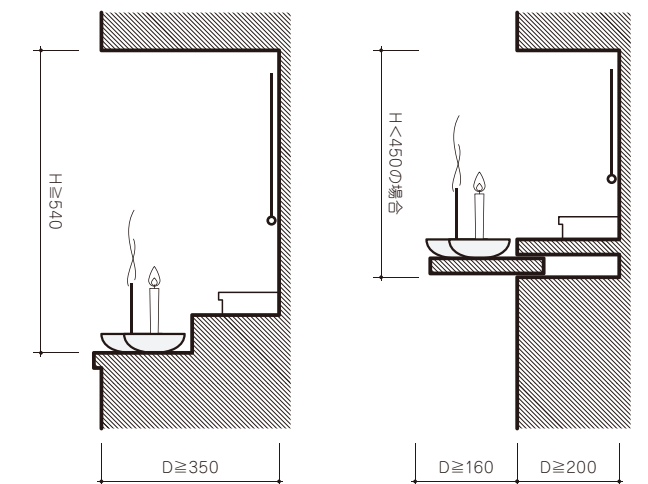
最低サイズ（内寸）  
 横幅：240mm（ギリギリ置ける仏具がある）  
 奥行き：200mm（軸を掛け位牌を置く最低寸法）  
 高さ：240mm（もっとも小さい軸を使う）  
 ※受け継いだ御本尊や仏具を使う場合はこの限りではありません。

最大はどこまでも対応できます。余白が多くなってもそれを埋める装飾仏具などは数多くあります。



**火を使う場所** — ロウソクとお香

仏壇の仏具にはロウソクを立てる「火立て」、線香を焚く「線香立て」があります。ともに火を使います。仏壇内部で仏具を使う台を設ける場合、540mm以上高い位置に天井があればほぼ問題ありません。450mmを切る場合は引き出した板（膳引）や前に台を置いて、仏壇の外側で火を使うようにします。







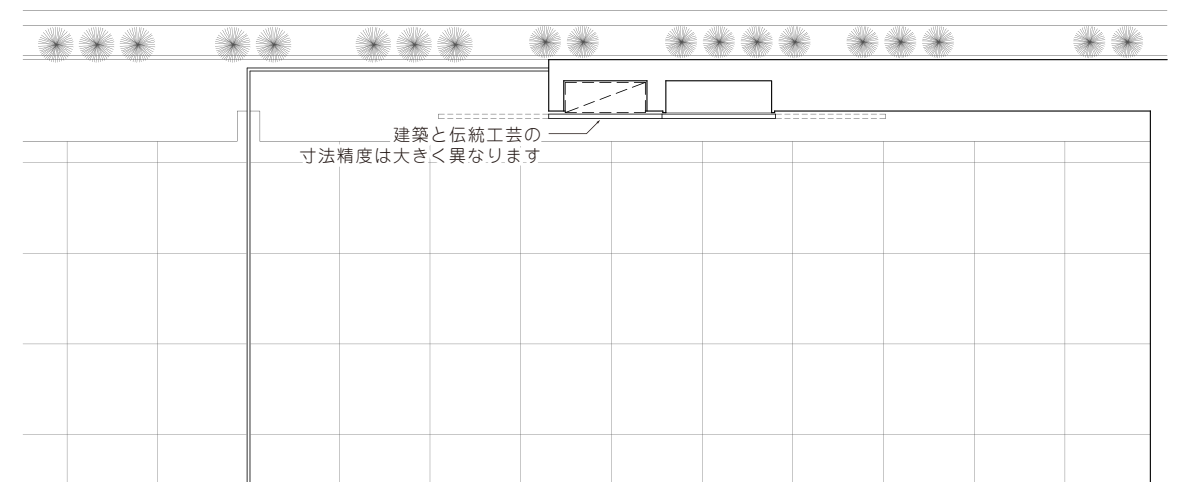
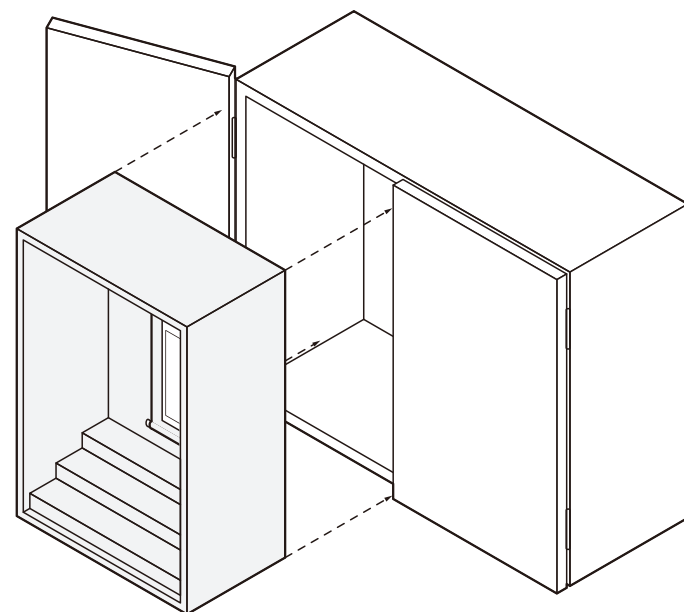
# Case Study 01

## 戸棚やキャビネットに嵌め込む

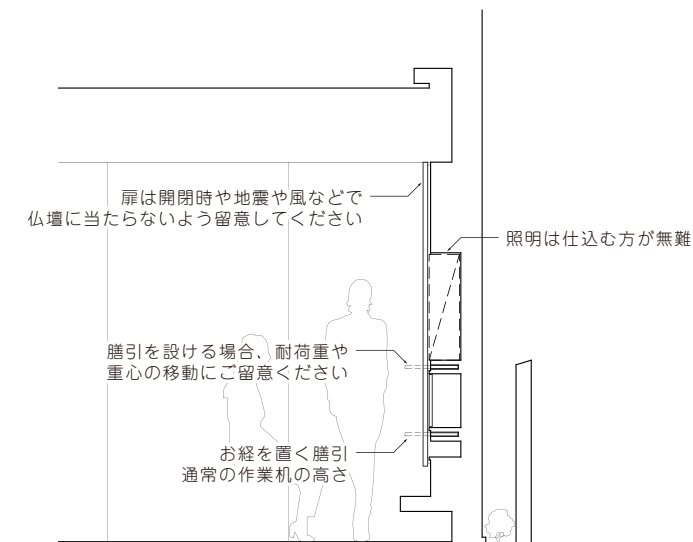
### 家具の扉の中に収める「嵌め込みタイプ」

既存のキャビネットや造り付け家具などに仏壇を収める「嵌め込みタイプ」です。モダンなデザインの小さな仏壇にする場合におすすめです。

扉付き家具に嵌め込むことで、扉を閉めると仏壇を意識しないインテリアにすることもできます。もちろん、扉をルーバーにするなど軽やかに存在を感じさせる演出なども取り入れることができます。仏壇自体も外側の仕上げをせず、箱状で完結させることができるため、シンプルに作るができます。



plan



section

0 1m 2m 3m

### 「嵌め込みタイプ」設計時の注意点

- ▶ 伝統工芸の木工は誤差0.5mm以下の精度があります。漆やカシューなどを塗ると1mm程度の“塗りぶくれ”が生じます。“塗りぶくれ”の寸法はコントロール仕切れません。
- ▶ ある程度の誤差を許容するように設計し、工房で作ったものを嵌め込むだけで設置できるようにするのが無難です。
- ▶ 完全に嵌め込む場合でも、仕上げは回しておいた方が無難です。
- ▶ 現場で組み立てる場合は、現場で1回以上調整する必要があります。ご相談ください。
- ▶ 製造期間は、仕様にもよりますが、最短で6ヶ月程度、場合によっては1年以上になることもあります。初盆などで急いで必要な場合は、仮の仏壇で対応することもできますのでご相談ください。
- ▶ コストは寸法や仕様、デザインによってかなり変動します。





# Case Study 02

## 壁の中に仕込む

### 決まったサイズの中で作る「仕込みタイプ」

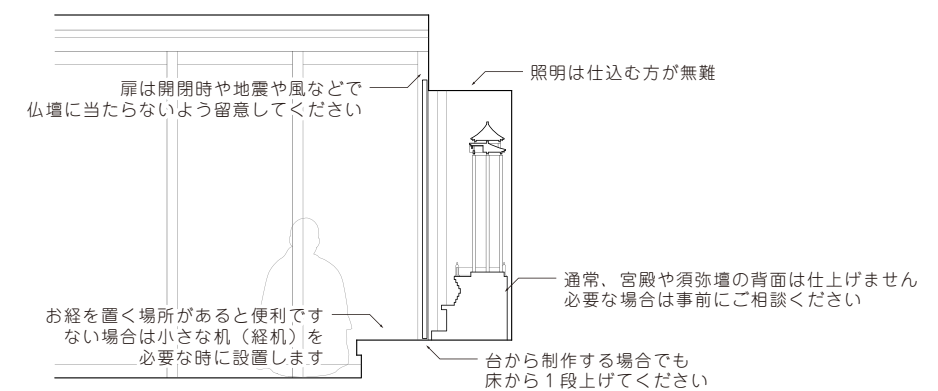
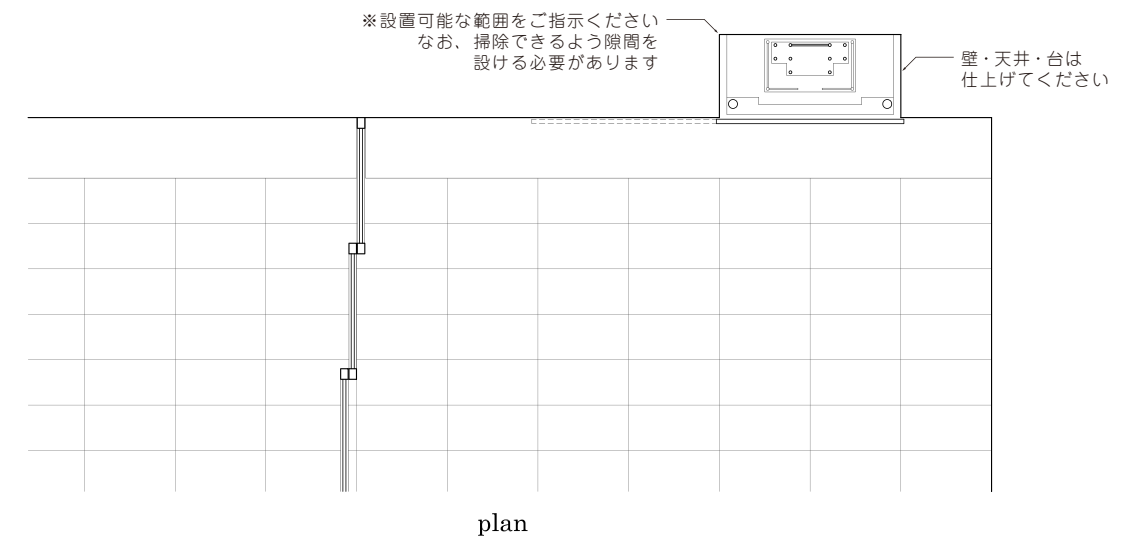
壁の中に用意した仏間に、伝統的な仏壇を組み上げる「仕込みタイプ」です。伝統的な仏壇を求められるケースでも扉内に収納できます。

仏壇は「仏像」または「掛け軸」の御本尊を祀るための装置ですが、御本尊は「須弥壇」というもっとも高い壇に祀られます。その須弥壇には「宮殿」という各宗派の本山を模した木工造作物が立てられます(右図)。これらの下に位牌や過去帳を置く位牌段、仏具を置く段が付きます。それらを組子の障子、そしてもっとも外側の雨戸と呼ばれる木の扉で囲われています。つまり、多重の結界で御本尊を大切に扱います。

上のCGのように仏壇の上下まで作ることも可能ですが、須弥壇と宮殿、そしていくつかの段を用意することで伝統的な仏壇として成立させることができます。



代表的な須弥壇(台部分)と宮殿(柱から上部分) ※真宗大谷派



### 「仕込みタイプ」設計時の注意点

- ▶ 事前に簡単なイメージと設置範囲の寸法をご提示いただき、ご相談ください。
- ▶ 伝統的な仏壇の場合、各要素の制作寸法がある程度決まっています。小さいものは制作できない可能性があります。
- ▶ 宮殿の木材は在庫を利用するとコストを抑え納期が早められる可能性があります。お問い合わせください。
- ▶ 宮殿や須弥壇の設置は、基本的には置くだけです。掃除できる隙間が必要です。
- ▶ 柱などを立てる場合、取り付け方法を検討し現場で1回以上調整する必要があります。塗る前に、木材の状態で寸法などを確認の方が無難です。
- ▶ 製造期間は、仕様にもよりますが、最短で6ヶ月程度、場合によっては1年以上になることもあります。初盆などで急いで必要な場合は、仮の仏壇で対応することもできますのでご相談ください。
- ▶ 本格的な宮殿は200万円〜になります。





# Case Study 03

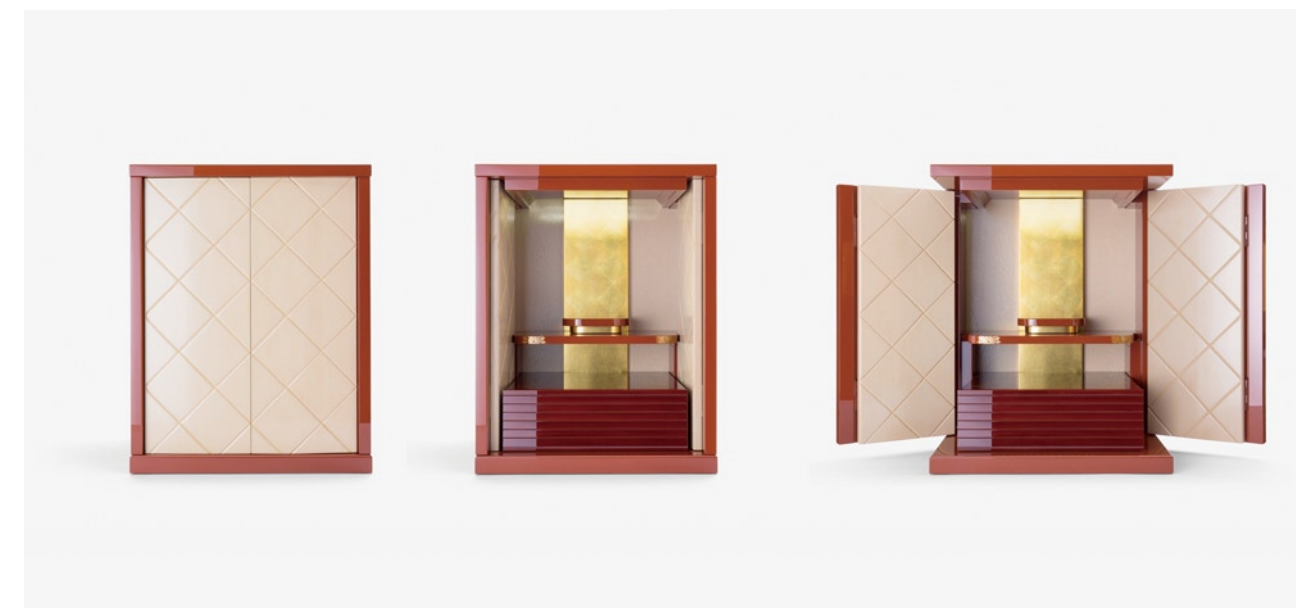
## 置き型仏壇の仕上げをオーダーメイドする

### 求める状態にカスタムする「オーダーメイドタイプ」

当社が制作する既製品であれば、色や質感、素材、場合によってはサイズなどの仕様を変えることができます。一部の国産仏壇などでも可能です。漆やカシューなどを使った塗装には様々な技法があり、空間に合わせた色や質感などをご提案できます。また、通常仏壇は背面まで仕上げませんが、空間での設置方法によっては背面も美しく仕上げる必要も出てくることもあります。そのようなご要望にも柔軟にお応えするよう取り組んでいます。

一例を載せていますが、詳しくはお問合せください。店舗には既製品の实物も用意しておりますので、お気軽にご来訪ください。

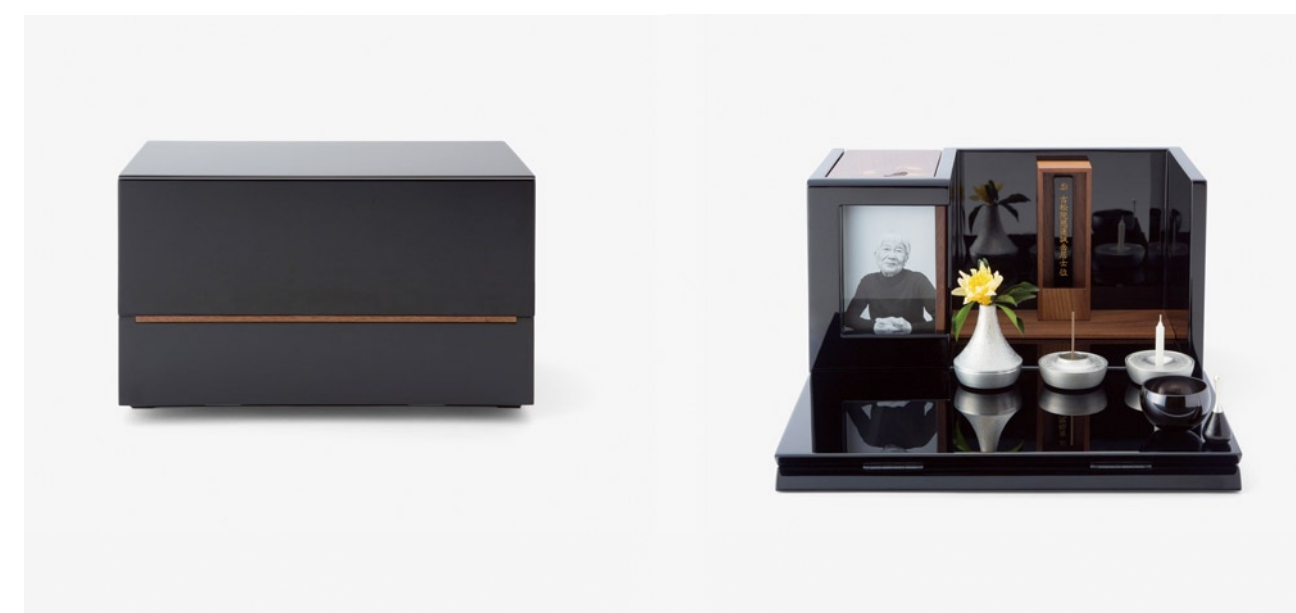
仕様を変更できる弊社が製造するモダン仏壇の一例



### あこがれ

「あこがれ」は最高級の素材・技法・職人で仕上げ、伝統的工芸品 彦根仏壇に認定された、上置き型のモダン仏壇です。扉を閉めるとシンプルに、広げて荘厳に、折り畳んでコンパクトにお祀りいただけます。

寸法：W420 × H540 × D360mm  
 (扉開放時 最大W880mm)  
 内寸：W370 × H260~290 × D175~300mm



### 黒戸

折戸を閉じると祈りの場と感ぜさせないシンプルな黒塗りの箱になります。重厚な蓋を開けた内部空間は、ウォルナットの台と自由壇の磁石配置システムにより自由にお祀りできます。

寸法：W376 × H231 × D214mm  
 (開放時D410mm)  
 内寸：W225 × H180 × D180mm  
 (開放時D396mm)

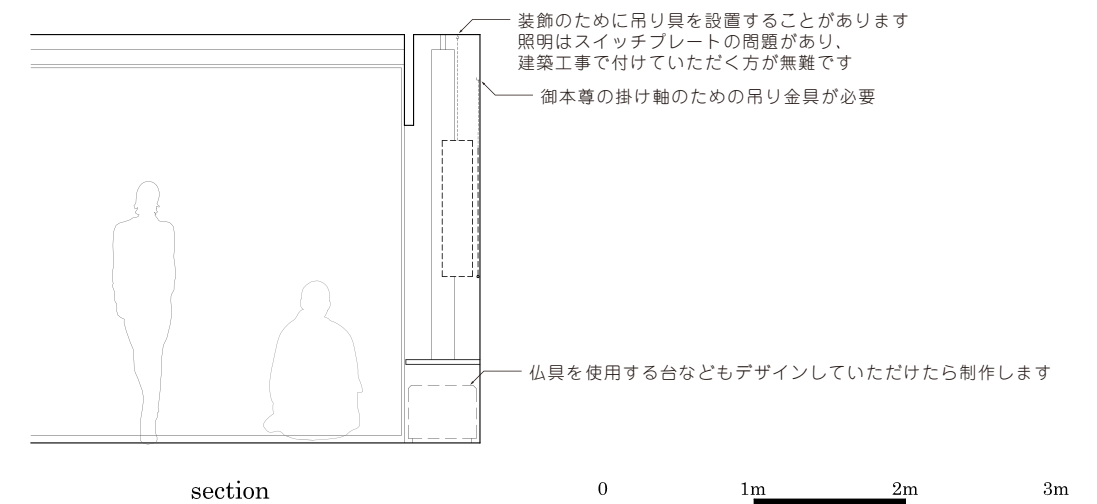
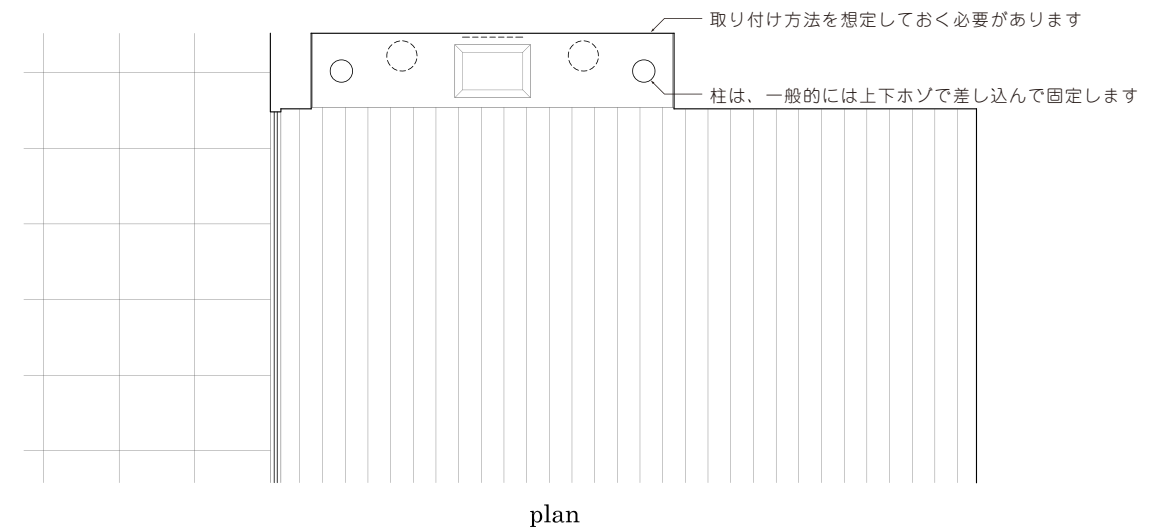


# Case Study 04

## ニッチを仏壇にする

### 必要な要素だけで構築する「組み込みタイプ」

ニッチなど空間の一部を仏間とし、その中で必要な要素だけを設置する「組み込みタイプ」です。壁などインテリアそのままにするなど工夫次第で、仏壇を空間デザインの一部として取り入れられるでしょう。仏壇には長い伝統から生じた型がいくつもありますが、実はそれを厳密に守らなければならないというきまりごとが指定されているわけではありません。  
仏壇の重要な要素のひとつである柱や板、かざりかなぐ銚金具、よつらく金箔、瓔珞などの装飾仏具など風格のある工芸部品を取り入れて、御本尊を大切に扱うように設置することでクライアントの要望に沿うことも可能性のひとつです。



### 「組み込みタイプ」設計時の注意点

- ▶ 制作するものによって価格と製造期間がかなり変動します。仕様にもよりますが、6ヶ月程度、場合によっては1年以上の制作期間になることもあります。特に最高級の素材と仕上げには年単位で時間を必要とします。
- ▶ 取り付け方法、設置方法は丁寧に検討しておく必要があります。塗り板などは基本的にやり直しできないため、木ネジ練り付けや滑り留めをした上で置くだけなど、簡易に設置できるよう方法を想定する方が無難です。
- ▶ 伝統工芸には得意なことと不得意なことがあります。複雑なデザインや変わったデザインは高価になることがあります。コストダウンの方法は、こちらからご提案させていただくこともあります。
- ▶ 伝統工芸を専門するデザイナーの協力を得ることもできます。一部のアドバイスから全部の提案まで、どのようなかたちでもご相談ください。
- ▶ 制作を進めるためには、職人に依頼するために前受け金が必要になることもあります。





# Case Study 05

## 寺院の内陣装飾・仏具

### 寺院の伝統的装飾からモダンデザインまで

弊社は寺院の内陣仏具にも対応しています。  
伝統的な寺院からモダンデザインに合わせたものまで、  
さまざまなタイプのご相談をお受けしております。  
もちろん位牌壇や納骨壇など、寺院で必要とされる  
仏壇・仏具は新しくデザインされたものでも可能な  
限り対応させていただきます。

状況やデザイン、またお寺様のご意向などの条件に  
よって取り組み方が異なりますので、詳しくはお問合せ  
ください。





# 伝統工芸の素材と技法

井上仏壇は伝統工芸の素材や技法をはじめ、現代の素材や技法まで分け隔てなく扱うことができます。伝統工芸は手作りのため、工場生産で製造される現代の素材とは異なる特性があります。その特性や製造誤差の吸収、作業工程、品質管理などを考慮して、最終製品までの道のりを構築する知識と技能を蓄積しております。

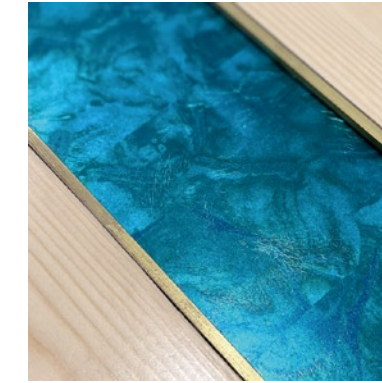
以下に取り扱っている伝統工芸の素材と技法のほんの一例を掲載していますが、ここにはない伝統工芸や素材、技法も扱っております。詳しくはご相談ください。

もちろん建材として利用のご相談も承っております。



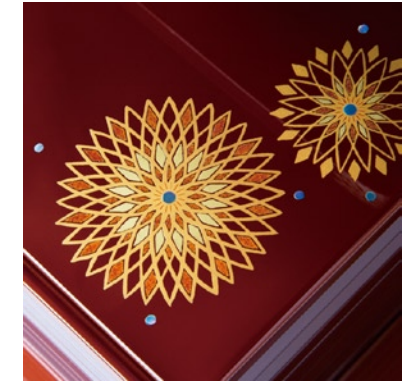
金箔

t=0.0001mmの金箔で物品を覆う装飾技法です。難しいとされてきた現代素材であるアクリル樹脂やガラスへの箔押しにも対応しています。



銀箔(焼箔)

銀箔を硫黄で燻して赤や黒など様々に発色させた伝統素材です。だいたいの色が揃っており、大理石のようなムラのあるものもあります。



蒔絵・螺鈿・沈金

漆は加飾技法も高度に発展しています。金粉で文様を描く蒔絵、薄い青貝を接着する螺鈿、表面を削ったところに金を入れる沈金など、さまざまな技法に対応します。



蠟色仕上げ

蠟色は漆塗装の中でも最高峰の仕上げです。少しの凹凸も許さず平滑に研ぎあげ、水に濡れたような深く美しい塗面をつくりあげます。



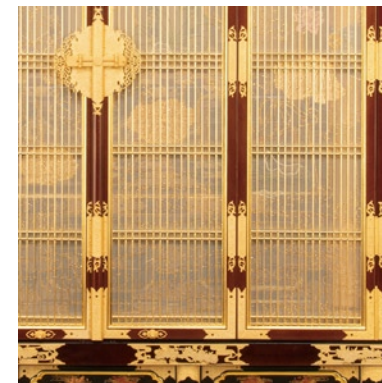
朱漆

黒と並んで朱も漆の伝統的な色です。金や白木とのコントラストも美しく、仏壇ではアクセントとして用いられます。



透漆

透き漆という半透明な褐色の漆を使った仕上げです。ケヤキを貼ってその杳目を残して塗り上げる杳目出し塗りという彦根仏壇特有の高度な塗りなどもあります。



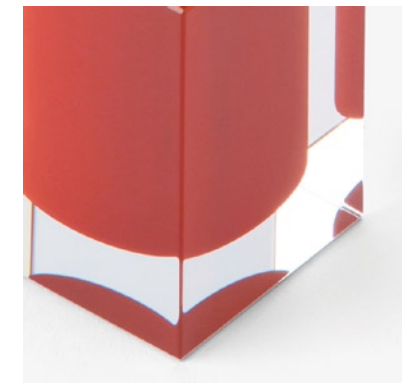
鍍金具

真鍮や銅を彫った装飾性に富む金工です。金鍍金や黒く光るニッケル鍍金、赤茶けた”くすべ”など様々な仕上げがあり、既製品から手打ちまで多様なサイズがあります。



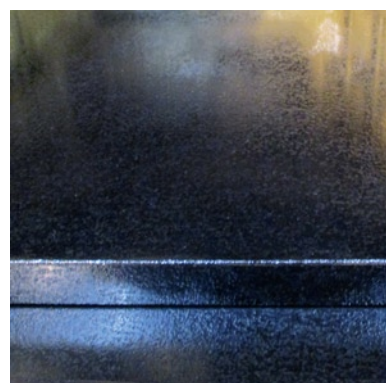
着色銅板

銅は古くから扱われてきた伝統素材で、その仕上げ技法もさまざまです。緑青のほか、白や茶などさまざまな仕上げがあります。



ガラス・アクリル

手吹きガラスから工場カットのクリスタルガラス、アクリルの扱いにも慣れています。漆を塗ることや金箔を押しなどの加工まで手がけています。



石目塗り

固めた漆を砕いた乾漆粉などを蒔いてざらりとした艶消しの質感をつくる技法です。落ち着いた雰囲気、刀の鞘などにも用いられる傷付きにくい丈夫な塗面になります。



梨地漆

漆面に錫粉などを蒔き、その上から透漆で仕上げる技法です。粉を蒔く量や蒔き方によって様々な表情が作れます。現代でいうラメ塗装のようなものです。



色漆

熟練した職人が天然漆と顔料を調合し、ご希望の色をオリジナルでご提案できます。ただし、純白など漆の性質上不可能な色もあります。



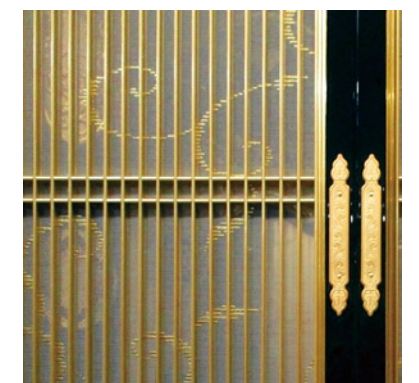
彫刻

仏壇の欄間などの彫刻から、把手、家紋、文様、風景、扁額、一枚板を彫った看板など、あらゆる彫刻が可能です。



組子

釘を用いずに精緻に木を組み上げる伝統技法です。伝統的な文様から斬新なパターンものなどもあります。



紗・織布など

仏壇の障子には金糸で文様を描き装飾した紗を使います。仏壇業界で流通している布製品は多く、これらの建材利用も可能です。



# お客様対応まですべてお任せください

もちろん詳細まで設計していただいても制作いたしますが、「設置場所」と「寸法」（決まっていれば**デザインの方針**なども）を添えてお任せいただければ、お客様とのお打合せを含めてすべて対応させていただくことも大歓迎です。

特に、お客様がお持ちの仏壇・仏具の確認、宗派やそれぞれの思いの実現、ご予算に合わせた荘厳など、仏壇の内容に関することはお任せください。

その際、この冊子に掲載している「仏壇のルールと必要なこと」や「Case Study」で鳳が提案する手法をご確認いただき、「設置場所」と「寸法」などが読み取れる図面等をご用意いただければスムーズです。

照明位置など仏壇側から出る要望は整理し、特に空間に影響が出そうな仕上げなどは確認いたします。擦り合わせた後に制作に取り掛かります。

ご希望であれば途中段階でも都度ご確認いただけます。

## 鳳 ブランドサイト

鳳のブランドサイトです。この冊子のPDFダウンロードや最新情報などを掲載しています。

[ou.crafts-inoue.com](https://ou.crafts-inoue.com)



## 井上仏壇 公式サイト

滋賀県彦根市にある井上仏壇の公式サイトです。仏壇に関する様々な情報を掲載しています。

[www.inouebutudan.com](https://www.inouebutudan.com)



## Crafts Inoue

全国の伝統工芸技術を使った様々な建材や装飾、工芸品などの〈統合工芸〉を制作しています。

[www.crafts-inoue.com](https://www.crafts-inoue.com)



## 仏壇の引越・供養処分

お仏壇の引越・供養処分について、手順などを紹介しています。

[www.inouebutudan.com/butsudan\\_hikkoshi/](https://www.inouebutudan.com/butsudan_hikkoshi/)



Direction & Design: Yosuke Inui  
Photography: Hiroshi Ohno, Ayaka Umeda, and so on.  
CG: Yosuke Inui  
Special Thanks To: Kenichi Kishi, Kazuhira Nagasaki

2024 Printed in Japan

copyright© INOUE Inc. All rights reserved.

本冊子の著作権は井上仏壇（株式会社井上）が保持しています。無断での複製、転載、流用することは著作権法で禁じられています。ただし設計時のご提案用など本冊子制作の目的に沿う場合はこの限りではありません。

## お問い合わせ

鳳へのご依頼、設計時の仏壇についての不明点、仏壇や仏具のご購入、仏壇のお洗濯（クリーニング・修復）などについては右記よりお問合せください。なお、繁忙期はお返事まで数日いただくこともございます。ご了承ください。



〒522-0031 滋賀県彦根市芹中町50番地  
☎ 0749-22-1587（定休日：火曜、第1第2水曜）  
<https://ou.crafts-inoue.com>  
✉ info@inouebutudan.com







井上仏壇  
INOUE BUTSUDAN

〒522-0031 滋賀県彦根市芹中町50番地  
☎ 0749-22-1587  
🌐 <https://ou.crafts-inoue.com>  
✉ [info@inouebutudan.com](mailto:info@inouebutudan.com)